

仕合わせの和

第239号

令和4年2. 1
(毎月1日発行)

仏教の開祖『釈尊』

(お釈迦様)

合掌 住職 谷川寛俊

今月十五日は、今から約2,500年前にお釈迦様がお亡くなりになられた御命日です。

そのお釈迦様が生誕になられたインドへ一度は行って見たいと思いつつ、残念ながらその機会がまだ訪れません。

インドと言う国は、長年にわたりイギリスの統治下であって、人口も中国に次いで世界第2位(13億人)で、その過半数は労働で生計を立てて、経済的にも文化的にも恵まれた国とは言えません。過去に何回も核実験を実施し、世界各国から厳しい非難を浴びたこともあります。更に驚くことにインドの仏教は、すでに八〇〇年前に滅びており、現在ヒンズー教徒80%、イスラム教徒12%、仏教徒はわずかに1%弱と言

う状況に愕然とします。お釈迦様を生んだ国なのに誠に残念でなりません。

しかし仏教が全盛時代の頃、有名なナーランダ仏教大学の旧跡は、東西250メートル。南北600メートルもあり、中国の玄奘三蔵(げんそうさんそう)(仏教を翻訳した人)が当時の大学の教授であった頃全国から集まった学生が1万人を超えていたという。その後イスラム教徒とのトラブルで破壊され、今は旧跡の広大な一部を残して往時を偲ぼせているそうです。

ところで日本の仏教は1500年前にインドから中国、朝鮮を渡って広まり、皇族や豪族の帰依によって、奈良朝、平安朝には聖徳太子によって仏教の全盛期をむかえ現在に至っており、今、日本には多くの世界遺産が登録されている。中でも世界的に有名な奈良東大寺の大仏や金閣寺、銀閣寺など多くの仏教建築を残しているが、参拝者の多くは観光や単なる見物が目的であって、信仰的な態度はあまり見られません。

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

よく戦後の教育が悪かったなどと耳にしますが、いずれにせよ時代は大きく変化していく中で日本の政治、経済、宗教、教育など各界とも未曾有の混乱で、道徳心は荒廃していく中で、今後どのような方向性を示して、往時の仏教の全盛時代を作り上げていけばよいのか真剣に考えなければならぬと思います。

かつて聖徳太子が十七条憲法(日本初の憲法)を制定した時、その第一条に『篤(あつく)く三宝を敬え、三宝とは仏・法・僧これなり。』

第二条に『和を以って貴し』とあります。家庭の中にあつて一番最初に、「和」つまり平和であり、神・仏を敬い、先祖を敬い、親の恩を知る。という教えがありました。幼い時からの教育が大切なのです。諸外国では、宗教の違いこそあれ、幼い時から神様の実在を信じ敬うという教育があります。

過日トングで起きた海底噴火の津波で27時間大きな丸太にしがみついで



助かった青年が、「神の存在があったので助かった」と言っているニュースを見ました。
もしこれが日本の青年だったらどのように答えたでしょうか？
お釈迦様の御涅槃会(おねはんえ)に当たり、もう一度自らの信仰心を見つめ直しましょう。